

## 4.2 アメリカ図書館協会：2010年に向けて

Michael Dowling

Director, ALA International Relations Office and Chapter Relations Office

(アメリカ図書館協会 国際関係部および支部関係部 部長 マイケル・ダウリング)

1876年、カッター(C.A. Cutter)やデューイ(Melvil Dewey)、その他5人がアメリカ図書館協会(ALA)を設立するためにフィラデルフィアに参集した当時は、電報が最速の通信手段であった。今日、その地位はテキストデータでの通信に取って代わられたが、ALAのミッション(使命)は今も当時と変わらない。「図書館と情報サービス、さらに司書職の発展、促進、そして改善のためにリーダーシップを発揮し、全ての人のために学習と情報へのアクセスをよりよいものとする」。

ほんの数人により設立され、一握りの代表が集まるだけであった初期の時代から、ALAは大きく成長した。現在では年間4,000万ドルの予算を有し、65,000人の会員と20,000人が集う会議を、270人のスタッフが3つの場所で支えている。

ALAは自らの新しい戦略計画の目的を達成しようとする動きを通じて、そのミッションを今も継続してサポートしている。その計画は“ALAhead to 2010”<sup>(1)</sup>と題され、6つの目的を設定し重視している。

- ・専門職のアドヴォカシー・価値
- ・教育
- ・公共政策と基準
- ・専門職の確立
- ・会員制度
- ・組織としての卓越性

本稿では、これらの目的を達成するためにALAが行っている重要な活動のいくつかに触れることとする。

### 1. 専門職のアドヴォカシー・価値

目標：ALAとその会員は、図書館と図書館専門職のアドヴォカシーを率先して行う。

人々の意識を高めるためのキャンペーン：

**@ your library<sup>®</sup>**

アメリカには推定で117,341の図書館があり<sup>(2)</sup>、89%の人々が公共図書館の状況に満足していると2005年に報告されているように、アメリカ国民は図

書館に対して概してよい印象を持っているけれども<sup>(3)</sup>、全ての館種—公共、学校、大学そして専門図書館—の図書館と司書は、情報に対する図書館と社会の権利の充実のためのアドヴォカシー活動を継続的に行っていく必要がある。

アメリカでは、昨年だけでおよそ18億人が来館し20億点の資料を借り出していることが示すように(4)、10年単位で一貫した傾向として、図書館利用者の属性を問わず、図書館の利用は全国的に上昇している。この事実にも関わらず、「全てはインターネット上にあるので」21世紀には図書館は必要ない、と考える人がいる。おわかりのように、これは誤った思い込みであるが、図書館と司書の重要性と価値に関し多くの誤解があることを示す一例でもある。図書館は価値のあるものであり、我々はそれを一般の人々、行政管理者、資金提供者、そして議員に示す必要がある。

- ・図書館は人気があるが、それらはあたりまえのものと考えられている。
- ・図書館はあらゆる所にあるが、しばしば目に付かなくなっている。
- ・そして図書館はユニークな存在であり、常に新しい課題に直面している。

こうした課題から生まれたのが、「アメリカの図書館のためのキャンペーン」(Campaign for America's Libraries) “@ your library”である。これは、複数年にわたるALAの意識向上とアドヴォカシーのためのキャンペーンで、公共、学校、大学そして専門図書館と司書の21世紀における価値を広く知らせることを目的としている。「アメリカの図書館のためのキャンペーン」は、一般の人々に、図書館は学習や情報、そして娯楽のためのダイナミックで現代的なコミュニティ・センターであることを人々に思い起こさせようとするものである。このキャンペーンでは、ALAおよび各図書館が活用できるような、わかりやすい商標が創られている。

※本稿は、国立国会図書館の2006年度調査研究事業の成果物である。

全米の図書館と図書館団体が、2001年4月以来、ファーストレディであるローラ・ブッシュ (Laura Bush) の支援により開始されたこのキャンペーンに取り組んでいる。事実、全50州の、あらゆる館種の20,000以上の図書館がこのキャンペーンを活用している。

プログラム企画のアイデア、記者発表用のサンプル資料、ダウンロード可能なアート作品、全米図書館週間 (National Library Week) その他プロモーションのためのヒントや提案、プレスリリース、写真、ビデオ、キャンペーンの最新情報などを提供するウェブサイトも存在する。これらの素材は無料で、各図書館が自身のマーケティングとPRに活用できるよう、各図書館にあわせてカスタマイズもできる (<http://www.ala.org/ala/pio/campaign/campaignamericas.htm>)。

## @あなたの図書館®

2001年、ALAと国際図書館連盟 (IFLA) が提携し、このキャンペーンを「世界の図書館のためのキャンペーン」 (Campaign for the World's Libraries) へと拡大した。日本図書館協会 (JLA) を含む31か国の図書館協会が、活動を促進するために翻訳版を活用している。JLAはキャンペーンの「商標」の翻訳版を、多言語資料ガイドに用いている。

### 図書館の資金獲得のためのALAによるアドヴォカシー活動

図書館と司書は気まぐれな資金提供者に左右されやすいままであるので、先の見通しをもったアドヴォカシー活動が必要である。ALAは、ワシントンD.C.にあるオフィスを通じて、図書館のための連邦政府予算からの資金が増加するよう、活動している。ALAはここ数年においては、連邦政府からの支援をわずかながらでも増加させることに成功してきている。

しかし、ブッシュ大統領の提案した2007年度予算で、アメリカ環境保護庁 (EPA) 図書館ネットワークのための資金が250万ドルから、200万ドルが削減された。この削減により、35年の歴史を持つEPA図書館ネットワークの予算は80%削減され、少なくともいくつかの地域図書館が閉館に追い込まれることになる。閉館により、環境や科学に関する重要なコレクションやデータセットに対するアクセスに影響が生じるであろう。というのもオンラインでの機能によって、



EPA職員、研究者、そして一般市民のニーズに応えることになるからである。

ALAは、連邦議会にこの閉館の影響を認識してもらう運動の先頭に立っており、2007年2月6日にはALAのバーガー (Leslie Burger) 会長が、EPA図書館の件に関し、環境と公共事業に関する上院委員会 (Senate Committee on Environment and Public Works) で証言を行った。

しかし、アメリカにおける図書館の資金の大半は、地元レベル、自治体や上部組織からの資金で賄われている。ほとんど全ての州において、図書館のアドヴォカシーの必要性が非常に高まっている。ALAではこのような予算削減や閉館の提案に全国的なスポットライトを当てている。この中には、小説家スタインベック (John Steinbeck) の故郷であるカリフォルニア州サリナスの図書館も含まれている。

ALAはまた、2006年に、引き続き資金不足に直面している学校図書館メディアセンターのためのアドヴォカシーも行っている。資金不足により、ベテランの学校図書館メディアスペシャリストがいなくなり、開館時間が短くなり、所蔵資料が使いものにならなくなり、メディアセンターが閉鎖されるようなことさえも起こっている。

図書館のデータとして資料の貸出点数を公表するだけでは、もはや政策決定者たちを納得させられない。ALAは図書館の経済的影響力を強調しているデータ

を収集し、また研究を行っている。フロリダ州の実例を示す次の表のように、図書館は投資に対する十分な見返りをコミュニティにもたらしている<sup>(5)</sup>。

フロリダ州の研究で判明した重要な点 ・6ドル54セントー全ての資金源からの投資1ドルにつき、フロリダの公共図書館が州およびその住民に還元した額。 ・9ドル8セントーフロリダの公共図書館に対する公的資金1ドルに対する地域総生産の増加額。 ・12ドル66セントーフロリダの公共図書館に対する公的資金1ドルに対する州全体の賃金の増加額
---

アドヴォカシーのためのトレーニング

図書館のアドヴォカシーのために、司書と図書館の支援者にトレーニングをおこなうことも重要である。2005年からALAではフォード財団から得た80,000ドルの助成金を用いて、地域でのトレーニングセッションを提供してきた。このセッションでは、参加者に対しアドヴォカシーのワークプランを通して一歩ずつ、どのようにすれば効果的なアドヴォカシー活動ができるのかについて全体像を提供する (<http://www.ala.org/ala/issues/2006workshopguide.pdf>)。

2. 教育

目標：ALAはリーダーシップを発揮して、司書と図書館スタッフに対して最高品質の大学院教育・継続教育の機会を保証する。
--

質の高い図書館教育を保証する

ALAは長年にわたり、アメリカ、カナダ、そしてプエルトリコにある修士および博士課程レベルの61の図書館情報学プログラムを監督・認定し、各プログラムが必要とされる高水準を満たしていることを保証してきた。認定は、高等教育機関とその部局、学部、またプログラムが質および完全性において適切な基準を満たしていることを保証するものである。

図書館の環境が刻々と変化する中、ALAは各ライブラリー・スクールが21世紀の司書にとって必要な知識とスキルを教えているか確認しているところである。1999年以来、ALAは教育の様々な側面に関して3回にわたる検討会を開催してきた。その第1回では、最初の専門職学位である修士レベルの教育に焦点をあてた。

その結果、ALAは認定基準を更新する検証過程にはいつている。前回更新されたのは1992年のことであった。提案された改正案は、学生の学習をアウトカムに基づいて評価することに焦点を当てている (<http://www.ala.org/ala/accreditation/StandardsReviewComment.htm>)。

第1回の検討会に続き、継続教育に関する検討会と、図書館サポートスタッフに対する教育に関する検討会が行われた。ALAにおけるこれまでの継続教育は、ALAが開催する会議が主であったが、現在ではウェブ教材やポッドキャスト (podcast) を通じた遠隔学習を実施している。

3. 公共政策と基準

目標：ALAは、図書館・情報サービスに影響を及ぼす国内外の政策や基準の作成に重要な役割を果たす。
--

図書館利用者のプライバシー保護—愛国者法

ALAの「倫理綱領 (Code of Ethics)」の第3条は、「われわれは、図書館利用者が探索したり受信したりした情報、また相談を受けたり、借りたり、入手したり、発送したりした情報資源に関して、利用者のプライバシーと秘密が守られる権利を保護する」と定めている。

2001年9月11日の同時多発テロ事件のあと、愛国者法 (USA Patriot Act of 2001) が通過したことで、図書館利用者のプライバシーに関する権利は猛攻撃にさらされている。ALAと全米の司書は、愛国者法の条項に異議を申し立てるにあたって指導的役割を果たしている。

特に司書たちが懸念しているのは、図書館利用者のプライバシーや市民の自由を侵害する可能性がある第215条である。これは、連邦捜査局 (FBI) に対し、いかなる個人、団体に対しても国家安全保障書簡 (NSL) を発給する権限を与え、記録、例えば図書館の利用記録を提出するよう命じることができるようにするものである。その条件は、「国際テロやスパイ活動から守るために・・・権限を与えられた捜査のため」の命令だと特定できる場合、というものである。第215条に基づく命令を受けた者は、その事実を決して誰にも公開してはならないとされていた。

ALAの努力の結果、2006年3月には愛国者法に多くの変更が加えられた。現在の第215条には、FBIのNSL発給に関してより制限的な基準が設けられて

おり、また NSL を受け取った者に対して、1 年経過すれば非開示規定に対し意義申し立てを行うことができるという権利を与えている。さらに第 215 条の法的効力は 2009 年 12 月 31 日まで再延長された。政府が 10 年間の再延長を望んでいたことを踏まえると、それ自体が勝利といえよう。

情報へのアクセスの保護

この新しいグローバルなデジタル時代において、資料の形態や提供の状況が変化するにつれて、図書館とその利用者が情報にアクセスできるかどうかが課題となっている。ALA ではアメリカの連邦著作権法に「公正使用 (Fair Use)」に関する条項を入れようと懸命に努力してきた。ALA はアメリカにおける他の主要な図書館協会 (米国法律図書館協会、北米研究図書館協会、医学図書館協会、専門図書館協会) とともに、図書館著作権同盟 (Library Copyright Alliance : LCA) を創設し、協力している。

LCA はデジタル著作権管理や大学図書館における電子リザーブの公正使用といった問題に取り組んでいる。著作権、知的財産の問題は、今では世界知的所有権機関 (WIPO) のような国際的な場で決定されているため、これらの課題はアメリカのみにとどまらないものになっている。LCA は IFLA と密に連携し、これらの話し合いにおいて図書館の見解を代弁している。

図書館立法の日

再度活力を獲得するために、ALA は毎年 5 月に、500 人以上の司書、図書館委員会委員、そして図書館利用者と支援者が首都に集まり、地元選出議員と図書館の必要性について話をする「全米図書館立法の日 (National Library Legislation Day)」を実施している。さらに各州の図書館協会も各々の「図書館立法の日」を設け、州の議員と共に図書館の問題について議論している。

4. 専門職の確立

目標：ALA は率先して、質が高く多様な図書館職員 (workforce) を採用・育成する。

高齢化する専門司書職

日本で高齢化が進行するのと同様に、アメリカにおける司書職もまた高齢化している。次の表が示すように、現職の司書の大多数が、この 10 年から 15 年の

時期	数
2000~04	5,479
2005~09	12,898
2010~14	23,208
2015~19	25,014
2020~24	14,400
2025~29	8,674
2030~34	6,517
2035~39	5,544
2040~44	691

65 歳になる司書の数 (2000 年の国勢調査より作成)

間に退職する<sup>(6)</sup>。

この専門職を引き続き次の世代の司書たちにとって魅力ある職業として確立するために、ALA では多くのキャンペーンを打ち出し、図書館に関連する領域のさまざまな仕事にスポットライトをあてている。例えばコミュニティに対してアウトリーチ・サービスを行うことから、ウェブマスターの育成や、情報リテラシー教育まで様々である。

これらのキャンペーンのターゲットは大学の学生と高校の生徒である。ALA はまた、魅力的なウェブ上の図書館 “Career.org” を作成している (<http://www.ala.org/ala/hrdr/librarycareersite/home.htm>)。

多様な労働力を生み出す必要性—スペクトラム奨学金

アメリカは人口統計学的に非常に多様であり、しかもその多様性はさらに増している。しかし、図書館専門職にある人々を人口統計学的に見ると、必ずしも国全体の人口の多様性は反映されていない。司書の多くは白人女性である (82%)。ALA ではさらに多くのマイノリティの人々が専門職として採用されることを望んでいる。アフリカ系アメリカ人は人口の 12% を占めているにもかかわらず、図書館専門職のわずか 5% しか占めていない。最も急速に増加しつつあるラテン系の人々においてはその数字はさらに低く、アメリカの人口の 13% を占めているにもかかわらず、図書館の職においてはたった 2% である。アジア系アメリカ人と、ネイティブ・アメリカンの専門職に占める割合は、人口における割合と近いものとなっている<sup>(7)</sup>。

1997 年に設立されたスペクトラム (Spectrum) 奨学金プログラムは、ALA による全米レベルの多様性とそれを反映した採用人事のための努力で、その目的は専門職の中できわめて必要とされている多様な民族の司書の数がまだ十分ではないという特別な問題に取り組むことであり、将来、より大きな多様性の問題

に注目を集めるためのモデルとして実施されている。ALA は司書を育てるべく、4つのエスニックの少数民族から450人近い学生のためにライブラリースクールに対して奨学金を提供している。

5. 会員拡大

目標：ALA の会員であることにより、際立った価値が得られる。

あまりにも長い間、ALA はそのメンバーを当たり前のものと見なしていた。ベビーブーム世代が、現在のALA のメンバーの大半を占めているわけだが、彼らは「団体に加入するのを好む」世代であり、ALA では毎年、常に90%に近い、高い更新率を誇っている。その次の世代であるX世代とY世代、そしてミレニウム世代は概して、当然のように「団体に加入するのを好む」というわけではない。

そのため、新しいALAhead to 2010計画はメンバーシップに焦点を当てることを含めた初の長期戦略計画となっている。

ALA は、ライブラリースクールの学生、またアメリカの図書館で働く人々の三分の二を占めている、司書資格をもたない図書館の補助職員の入会勧誘に真剣に取り組んでいる。

ALA では、州の図書館協会と共通の会員資格というインセンティブによって、ALA に加入するライブラリースクールの学生数をほぼ2倍にすることに成功してきた。しかしながら、既存のメンバーのためになるサービスを提供しながら、今では全体の15%を占めているこれらの新しいメンバーにとって有益なサービスをいかにして提供するかということが、現在の課題となっている。

ALA がとった最初の行動は、そのメンバーの調査をより綿密に行うことであった。彼らはいったいどういう人たちで、何を期待しており、協会にどのように参加し関わりたいと思っているのか。ALA ではこうした調査を開始したばかりである。2004年にはALA はメンバーとのコミュニケーションに関する指標ともなる調査を作成した。続いて2006年に調査が行われた。メンバーを視野に入れることで、ALA はこの分野において進歩を見せているが、まだまだなすべきことは多い。

バーチャルワールドに住み、交流をする新しいメンバーにとって、バーチャルなコミュニケーションの機会は確かに興味ある分野である。100年間にわたって、ALA が毎月発行している印刷物はコミュニケーションの主なツールであったが、今ではメンバーに毎週直接配信されるE-ニューズレターもそのツールに加えられている。

6. 組織としての卓越性

目標：ALA は包括的かつ効果的に運営され、よく管理され、資金面でも強力な組織である。

ALAhead to 2010のこの究極の目標は、初めて組織自体の改善に焦点をあてたものである。想像されるように、多くの異なる部門を持つ非常に大きな組織として、また分散したモデルとして、全ての部門が共にスムーズに効果的に機能するようにすることは大きな課題である。ALA がメンバーに対してうまくサービスを行い、ミッションを達成しようとするならば、「継続的な改善」—日本の企業を非常に効果的なものとしているモットーである—が必要である、と認識されている。

古い慣習や方法は、より効率的で効果的な発信や応答を生み出すために、精査される必要がある。そこでALA では様々な形で組織の見直しを行っている。その最も重要なものの一つがALA のウェブサイトで、現在世界中の何百万人という人々に対するALA の顔となっている。これもALA のより効果的な代弁者に育てていく必要がある。

もう1つの焦点は、巨大なALA 年次大会を、もっと参加者に親しみのあるものにするることである。20,000人も参加者を有するこの会議は、想像されるように没個性的で威圧的で、特に初めて参加する人はそう感じるであろう。これには、ALA 年次大会に参加する海外からの司書に対してのサポートをもっと充実することも含まれる。

また他に検討されている分野としては、メンバーからの会費の支払いがある。古い方法の代わりに、技術やビジネス慣習を取り込んで、メンバーの銀行口座からの直接振り込みや、クレジットカードの利用、またメンバーシップの金銭的負担を減らし、支払いをよりスムーズにするための分割払いなど、携帯電話の支払いにも似たやり方が検討されている。

## 7. 結び

現在は ALA の長い歴史の中で、非常に重要な時期である。ALA の新しい戦略計画である ALAhead to 2010 は、今後 3 年間の ALA のとるべき道筋を設定しており、全国の図書館に対するアドヴォカシーを増強し、図書館のコミュニティが必要とする教育や研修を受けることを保障し、図書館とその利用者に影響をおよぼす公共政策に影響を与え、さらに次の世代を図書館専門職と協会に惹き付けようとするものである。

- (1) American Library Association. "ALAhead to 2010". <http://www.ala.org/ala/ourassociation/governingdocs/aheadto2010/aheadto2010.htm>, (accessed 2007-02-28).
- (2) "Number of Libraries in the United States: ALA Library Fact Sheet 1". American Library Association. <http://www.ala.org/ala/alalibrary/libraryfactsheet/alalibraryfactsheet1.cfm>, (accessed 2007-02-28).
- (3) American Library Association. The state of America's Libraries. 2006. [http://www.ala.org/ala/pressreleases2006/march2006/4-06\\_StateofAmericasLibraries.pdf](http://www.ala.org/ala/pressreleases2006/march2006/4-06_StateofAmericasLibraries.pdf), (accessed 2007-02-28).
- (4) "Library Statistics Program (Lib)". National Center for Education Statistics. <http://www.nces.ed.gov/pubsearch/getpubcats.asp?sid=041>, (accessed 2007-02-28)
- (5) McClure, Charles R. et al. Economic Benefits and Impacts From Public Libraries in the State of Florida: Final Report. 2000. <http://dilis.dos.state.fl.us/bld/finalreport/>, (accessed 2007-02-28).
- (6) Davis, Denise M. Library Retirements: What Can We Expect. American Library Association, 2004. [http://www.ala.org/ala/ors/reports/LISGradsPositionsAndRetirements\\_rev1.pdf](http://www.ala.org/ala/ors/reports/LISGradsPositionsAndRetirements_rev1.pdf), (accessed 2007-02-28).
- (7) Davis, Denise M.; Hall, Tracie D. Diversity Counts. 2006. <http://www.ala.org/ala/ors/diversitycounts/DiversityCountsReport.pdf>, (accessed 2007-02-28).  
(訳注：2007 年 1 月に改訂版が公開されている。Davis, Denise M.; Hall, Tracie D. Diversity Counts. Revised. ed, 2007. [http://www.ala.org/ala/ors/diversitycounts/DiversityCounts\\_rev07.pdf](http://www.ala.org/ala/ors/diversitycounts/DiversityCounts_rev07.pdf), (accessed 2007-03-11).)

## 4.2 The American Library Association: Ahead to 2010

---

Michael Dowling

*Director, ALA International Relations Office and Chapter Relations Office*

Back in 1876, when Melvil Dewey, C.A. Cutter, and a five others gathered in Philadelphia to found the American Library Association (ALA), the telegraph was the instant messaging of the day. Today, its text messaging, but the mission of ALA is still the same “to provide leadership for the development and promotion and improvement of library and information services and the profession of librarianship in order to enhance learning and access to information for all.”

From its humble beginnings of a few members and conferences with a handful of delegates, the American Library Association has grown to be a 40 million dollar a year organization with 65,000 members and conferences of 20,000 people supported by a staff of 270 in three locations.

ALA continues its support of its mission through its efforts to achieve the objectives of its new strategic plan, entitled ‘ALAhead to 2010.’<sup>(1)</sup> The efforts focus in on six goal areas:

- **Advocacy/Value of the Profession**
- **Education**
- **Public Policy and Standards**
- **Building the Profession**
- **Membership**
- **Organizational Excellence**

This article will touch on some of the important activities that ALA is engaged in to achieve these goals.

### Advocacy/Value of the Profession

**Goal:** *ALA and its members are the leading advocates for libraries and the library profession.*

#### Public Awareness Campaign - @your library<sup>®</sup>

There are an estimated 117,341 libraries in the United States<sup>(2)</sup>, and though the American public overall has a good impression of libraries, as illustrated by 89% reporting to be satisfied with their public libraries in 2005<sup>(3)</sup> all types of libraries and librarians- public, school and university, and special need to continue to advocate for libraries and society’s right to information.

Despite the fact that library use is up nationwide in the U.S. among all types of library users, continuing a decade-long trend, with almost 1.8 billion visitors checked out more than 2 billion items last year<sup>(4)</sup>, some feel that libraries are not needed in the 21<sup>st</sup> Century, “with everything now on the Internet”. As we know, this is a false assumption, but it is one of the many misconceptions about the importance and value of libraries and librarians. Libraries are valuable but we need to show the public, administrators, funders, and legislators.

---

※本稿は、国立国会図書館の2006年度調査研究事業の成果物である。

- While libraries are popular, they are often taken for granted.
- While libraries are ubiquitous, they are not often visible.
- And, while libraries are unique, they are facing new challenges.

Out of these challenges was born The Campaign for America's libraries '@ your library', ALA's multi-year public awareness and advocacy campaign designed to showcase the value of public, school, academic and special libraries and librarians in the 21st century. The Campaign for America's Libraries is designed to remind the public that libraries are dynamic, modern community centers for learning, information and entertainment. The Campaign is designed to create a recognizable brand that ALA and libraries could use.

Libraries and library organizations across the country have already embraced the Campaign, which launched in April 2001 with the help of First Lady Laura Bush. In fact, over 20,000 libraries of all types in all 50 states have been utilized the Campaign.

A website provides programming ideas, sample press materials, downloadable artwork, tips and suggestions for National Library Week and other promotions, press releases, photos, video, campaign updates and more. The materials are free and designed to be customized by your library to help you conduct your own marketing and public relations efforts <http://www.ala.org/ala/pio/campaign/campaignamericas.htm>

## @あなたの図書館®

In 2001 ALA and IFLA partnered to expand it to a *Campaign for the World's Libraries*. Associations from 31 countries, including the Japan Library Association, have utilized translations to help promote their activities. JLA used translations of the 'brand' campaign for its multilingual materials guide.

### ALA Advocates for Funding for Libraries

Proactive advocacy is needed because libraries and librarians remain vulnerable to the whims of others for funding. ALA, through its Office in Washington D.C., works to increase funding from the federal government for libraries. ALA has been successful during the last few budgets to get slight increases in federal support.

However, President Bush's proposed 2007 budget cut \$2 million from the \$2.5 million fund for the U.S. Environmental Protection Agency's (EPA) network of libraries. The cut would reduce the 35-year-old EPA Library Network's budget by 80 percent and force closure of at least some regional libraries. These closings will affect access to the important environmental and scientific collections and data sets since online functions will meet the needs of the EPA staff, researchers, and the public.

ALA has lead the fight to make the U.S. Congress aware of the impact of closing and on February 6, ALA President Leslie Burger testified before the Senate Committee on Environment and Public Works on the issue of EPA libraries.



Most of the funding for libraries in the United States however comes from the local level, the local municipality or local parent organization. The need for library advocacy has been especially acute in certain cases in almost every state. ALA shines a national spotlight on these cutbacks and proposed closures, which included novelists John Steinbeck's hometown of Salinas, Calif.



ALA is also advocating for school library media centers which continue to face funding shortages in 2006, leading to elimination of trained library media specialists, shortened hours, inadequate materials and even closures of media centers.

To make the case for libraries data on number of materials circulated is no longer enough to convince decision-makers. ALA is gathering and creating research highlighting the economic impact of libraries. As shown in this chart from Florida, libraries are a good return on investment to a community. <sup>(5)</sup>

**Some key findings from study in Florida:**

- \$6.54 — amount Florida's public libraries return to the state and its residents for every \$1.00 invested from all sources.
- \$9.08 — increase in gross regional product for every dollar of public support spent on Florida's public libraries.
- \$12.66 — increase total state wages for every dollar of public support spent on Florida's public libraries

**Advocacy Training**

It is also vital to train librarians and library supporters to advocate for libraries. Beginning in 2005 ALA through an \$80,000 grant from the Ford Foundation, has been providing regional training sessions. The sessions provide an overview on how to become an effective advocate by taking the participants step by step through an advocacy workplan <http://www.ala.org/ala/issues/2006workshopguide.pdf>

**Education**

**Goal:** *Through its leadership, ALA ensures the highest quality graduate and continuing education opportunities for librarians and library staff.*

**Ensuring Quality Library Education**

ALA's long-standing oversight accrediting 61 library and information science programs in the United States, Canada, and Puerto Rico at the Masters or Doctoral level has ensured that programs are meeting high standards necessary. Accreditation assures that higher education institutions and their units, schools, or programs meet appropriate standards of quality and integrity.

With the changing environments in libraries, ALA is working to make sure library schools are teaching the knowledge and skills needed for the 21st century librarian. Beginning in 1999, ALA has held 3 Congresses on various aspects of education. The first focused on the Masters level education, the first professional degree.

As a result ALA is in the process of updating its Standard's for Accreditation, which were last updated in 1992. The proposed revisions will put a focus on outcome-based measurements of student learning <http://www.ala.org/ala/accreditation/StandardsReviewComment.htm>

The first Congresses has been followed up with Congresses on Continuing and Education and Education for Library Support Staff. Continuing Education by ALA in the past primarily was the conferences put on by ALA. ALA is now creating distance-learning opportunities through web courses, podcasts, etc.

## Public Policy and Standards

**Goal:** *ALA plays a key role in the formulation of national and international policies and standards that affect library and information services.*

### Protecting Library User Privacy- The USA Patriot Act

Article III of the **ALA Code of Ethics** states “*We protect each library user's right to privacy and confidentiality with respect to information sought or received, and resources consulted, borrowed, acquired or transmitted.*”

With the passage of the USA Patriot Act of 2001 following September 11, 2001 the rights to a library user's right to privacy has been under assault. ALA and librarians across the United States have been the leaders in challenging sections of the Patriot Act.

Of particular concern to librarians is Section 215 that can infringe on library patron privacy and civil liberties by allowing the Federal Bureau of Investigation (FBI) to issue a National Security Letter (NSL) to any person or entity, ordering them to turn over records, such as library records, so long as it specifies that the order is “for an authorized investigation . . . to protect against international terrorism or clandestine intelligence activities.” Those served with Section 215 orders were flatly prohibited from disclosing that fact to anyone else.

As a result of these efforts by ALA a number of changes have been made to the PATRIOT Act in March 2006. Section 215 now includes more restrictive standards under which the FBI can issue NSLs and it gives NSL recipients the right to challenge the non-disclosure provision after one year. Also, Section 215 was reauthorized only until Dec. 31, 2009, itself a victory because the government had sought a 10-year renewal.

### Protecting Access to Information

In this new global digital age libraries and their users ability to access information is being challenged as the landscape changes on formats and delivery of materials. ALA has worked very hard to get ‘fair use’ provisions put into copyright laws in the United States. ALA has created a Library Copyright Alliance (LCA) with other major library associations in the United States (American Association of Law Libraries, Association of Research Libraries, Medical Library Association, and Special Libraries Association) to work together.

The LCA works on issues such as digital rights management and fair use of electronic reserves in academic libraries. The challenges are no longer just within the confines of the United States as copyright

and intellectual property issues are now being decided at the international level such as the World Intellectual Property Organization (WIPO). The LCA is working closely with the International Federation of Library Associations and Institutions (IFLA) to represent the libraries view at these discussions.

**Library Legislation Days**

Once again to be proactive, every year ALA organizes ‘National Library Legislation Day’ in May in which more than 500 librarians, library trustees, and library users and supporters travel to the nation's capital in May to speak with their elected representatives about the needs of libraries. In addition, each state library association also organizes their own ‘Library Legislative Days’ to discuss library issues with state legislators.

**Building the Profession**

**Goal:** *ALA is a leader in recruiting and developing a highly qualified and diverse library work force.*

**The Graying of the Profession**

Just as Japan has an aging population so does librarianship in the United States. As the table below illustrates a large majority of current librarians will be retiring in the next 10-15 years. <sup>(6)</sup> To help ensure that the profession continues to attract the next generation of librarians ALA has embarked on a number of campaigns to highlight the variety of jobs in the library field, from providing outreach to communities, being webmasters, teaching information literacy.

These campaigns are being targeted to both university and high school students. ALA has also created an attractive website Library called Careers.org <http://www.ala.org/ala/hrdr/librarycareersite/home.htm>

**Number of Librarians Reaching Age 65(2000 Census Base)**

<u>Time Period</u>	<u>Number</u>
2000-04	5,479
2005-09	12,898
2010-14	23,208
2015-19	25,014
2020-24	14,400
2025-29	8,674
2030-34	6,517
2035-39	5,544
2040-44	691

**The Need to Create A Diverse Workforce- Spectrum Scholarships**

The United States is very diverse demographically, and it is getting more diverse. Looking at the demographics of the library profession however, it does not reflect this diversity. The majority of librarians are white females (82%). ALA is interested in recruiting more members of minority groups to the profession. Though African-Americans make up 12% of the population only 5% of the library profession is African-American. The numbers are even less for the fastest growing population, Latinos. Latinos are now 13% of the U.S. population but only 2% of the profession. Percentages of Asian Americans and Native Americans in the profession are closer to the population. <sup>(7)</sup>

Established in 1997, the Spectrum Scholarship Program is ALA's national diversity and recruitment effort designed to address the specific issue of under-representation of critically needed ethnic librarians within the profession while serving as a model for ways to bring attention to larger diversity issues in the future. ALA has provided scholarships to library school for close to 450 students from these 4 ethnic-minority groups to become librarians.

## Membership

**Goal:** *Members receive outstanding value for their ALA membership.*

For maybe too long ALA has taken its members for granted. The baby-boom generation, which is currently the majority of ALA membership, is a generation of 'joiners' so ALA has always had a high level of renewal rate every year, close to 90%. The next generations, Generations X, Y, and Millennial's are as a whole not natural 'joiners.'

Because of this the new ALAhead to 2010 plan is the first long-range strategic plan that has included a focus on the membership.

ALA has really begun to focus on recruiting library school students as well as library support staff, the non-librarians who make of 2/3rds of the library workforce in the United States.

ALA has been successful in almost doubling the number of library school students who join ALA with incentives of joint memberships with state library associations, but the challenge now is how to provide services that are beneficial to these new populations, which now make up 15% of members, while still serving the interests of current members.

The first step that ALA is embarking on is to do more research on the members, who are they, what are there expectations, how would they like to be engaged or participate in the association. ALA has begun to do this. In 2004 ALA created a benchmark survey on ALA communication with members. This was followed up with a survey in 2006. ALA has shown improvement in this area in the eyes of its members, but more still can be done.

Virtual opportunities for communication are certainly one area of interest for new members who live and interact in a virtual world. ALA's monthly print magazine has been the main form of communication for 100 years, but it has now been joined by a weekly e-newsletter that is sent directly to members.

## Organizational Excellence

**Goal Statement:** *ALA is an inclusive, effectively governed, well-managed, and financially strong organization.*

This final goal of ALAhead to 2010 is also the first time that emphasis has been placed on improving the organization itself. As you can imagine as a very large organization with many different departments and a decentralized model it is a challenge to make all of the pieces work together smoothly

and effectively. The recognition is that if ALA is to successfully serve its members and its mission it needs to continually improve- a motto that has made Japanese industry so effective.

Old practices and methods need to be scrutinized to create more efficient and effective delivery and responses. So ALA is undertaking a lot of reviews of its organization. One of the most important is the ALA website, which is now the face of ALA to millions of people around the world. It needs to become a more effective spokesperson for ALA.

Another focus is making the large ALA Conference more attendee friendly. With 20,000 attendees you can imagine that it would be very impersonal and daunting, especially to first-time attendees. This includes more assistance in support to international librarians who attend the ALA Conferences.

Another area being investigated is the payment of dues from members. Instead of old methods, embracing the technology and practices of business for direct payment from member bank accounts or credit cards and offering payment in portions to make the process smooth and spread the financial burden of membership into manageable payments like to due to your cell phone company.

## Conclusion

It is an important time in the long tenure of the American Library Association. ALA's new strategic plan, ALAhead to 2010, is setting the course for ALA over the next three years to increase the advocacy for libraries across the country, to ensure the library community is receiving the education and training needed, to influence public policy that impacts libraries and library users, to attract the next generations to join the profession and the association.

## References

- (1) American Library Association. "ALAhead to 2010". <http://www.ala.org/ala/ourassociation/governingdocs/aheadto2010/aheadto2010.htm>, (accessed 2007-02-28).
- (2) "Number of Libraries in the United States: ALA Library Fact Sheet 1". American Library Association. <http://www.ala.org/ala/alalibrary/libraryfactsheet/alalibraryfactsheet1.cfm>, (accessed 2007-02-28).
- (3) American Library Association. The state of America's Libraries. 2006. [http://www.ala.org/ala/pressreleases2006/march2006/4-06\\_StateofAmericasLibraries.pdf](http://www.ala.org/ala/pressreleases2006/march2006/4-06_StateofAmericasLibraries.pdf), (accessed 2007-02-28).
- (4) "Library Statistics Program (Lib)". National Center for Education Statistics. <http://www.nces.ed.gov/pubsearch/getpubcats.asp?sid=041>, (accessed 2007-02-28)
- (5) McClure, Charles R. et al. Economic Benefits and Impacts From Public Libraries in the State of Florida: Final Report. 2000. <http://dlis.dos.state.fl.us/bld/finalreport/>, (accessed 2007-02-28).
- (6) Davis, Denise M. Library Retirements: What Can We Expect. American Library Association, 2004. [http://www.ala.org/ala/ors/reports/LISGradsPositionsAndRetirements\\_rev1.pdf](http://www.ala.org/ala/ors/reports/LISGradsPositionsAndRetirements_rev1.pdf), (accessed 2007-02-28).
- (7) Davis, Denise M.; Hall, Tracie D. Diversity Counts. 2006. <http://www.ala.org/ala/ors/diversitycounts/DiversityCountsReport.pdf>, (accessed 2007-02-28).